

## 【和光市】 校務DX計画

### 1. 現状と課題

本市では、令和3年に統合型校務支援システムを導入し、学籍の記録とともに、出欠席や成績、保健管理等を1つのシステムで管理してきた。

また令和6年より勤怠管理についても運用を開始することで、教職員の負担軽減および校務の効率化を図ってきた。

一方で、システムを閉域網で稼働させていることや端末の使用場所を制限していることから、機能の一部を有効に活用できていない課題がある。

また「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等から、「FAXの利用」や「教員・保護者間の押印・署名が必要な書類のやり取り（不必要な押印・署名）」といった校務の効率化やペーパーレス化を阻害する要因が顕在化している。

### 2. 今後の取組

#### (1) 統合型校務支援システムの更改

現在のシステムは令和3年から運用を開始している。このシステムの導入により各校の情報の一元化が進み、校務の効率化が図られた。さらなる効率化に向け、システムの内容検討等を進めていく。

#### (2) ネットワーク環境の構築

現在、市内小中学校の全校において、普通教室、特別教室、体育館でインターネットの接続が可能になっているが、一部繋がりにくい場所があるといった課題も見受けられるため、令和8年度に予定しているネットワーク環境整備において、快適な通信環境を目指し、文部科学省が示す学校規模ごとの1校あたりの帯域の目安（当面の推奨帯域）の値を参考に改善を図っていく。

#### (3) FAXおよび押印の見直し

FAXについては、現在、学校運営の支障報告や他課の会議出席の可否等で活用している。今後は、緊急連絡やネットワークの不具合時など、電子メールよりもFAXのほうが効率的な場合を除き、電子メールやオンラインシステムを用いたやりとりの可否を検討し、見直しに向けて取り組んでいく。

また押印については、統合型校務支援システムの内容検討を進め、指導要録の校長及び担任の押印廃止に向け、検討するとともに、市全体で押印について見直しを行っていく。

#### (4) ペーパーレス化の推進

現在、各学校では職員会議等において会議資料を共通フォルダやネットワーク上に保存し、各先生が自由に閲覧できるようなシステムを用いて会議を実施している。また学校だよりなどのお便りや学校単位でのアンケート調査などもオンラインで行う学校が増えてきている。

さらにペーパーレスを進められるよう、市におけるアンケートもオンライン化を進めるとともに、学校への各種申請についても検討を進め、可能なものから順次オンライン化し、ペーパーレスを進めていく。